

＜応募状況＞

部門	応募数
一般の部（自由題）	524首
一般の部（題詠）	503首
小学生の部	637首
中学生の部	1,269首
高校生の部	710首
計	3,643首

第9回青の國若山牧水短歌大会 入賞作品

＜青の國短歌大賞＞

自転車のかごに世界の産声を満たして走る新聞少年

岸本 恵美 大分県大分市

＜一般の部 自由題＞

○最優秀賞

梅雨晴の空を見上げて子どもらは「おかえりなさい」と太陽に言ふ

金澤 謙和 大分県大分市

○優秀賞

止まるからオルゴールはいい人生も同じと思えばいとおしくなる  
巣に小さき羽ばたきあれば青空を切り取るように燕飛び来る

大野 美波 埼玉県入間市  
久保田 聰 神奈川県川崎市

○優良賞

悔いの無き一日となれと洗面の鏡の曇りを丹念に拭く  
もっさりを一気に飲みて満杯の梅雨の近江に二杯目を注ぐ  
断捨離の難を免れて安堵する書棚に並ぶ作家の面々

田原 帯刀 宮崎県日向市  
丸山 勝也 愛知県稻沢市  
鈴木 瞳代 宮崎県日向市

○佳作

卒寿なる母そばにいて笑い合う面白きこと何も無いのに  
空を見るたび鳥たちが尋ね来るまだ人間でいるつもりなの?  
玉ねぎを吊し終えればちぐはぐに楽譜の如し夕焼け小焼け  
さよならは再会できるから言える逢えぬものなら言えぬさよなら  
アパートのクローゼットのその隙間 自由と孤独座っていたり  
散り敷ける合歓の花びら踏まぬようケンケン飛びして小学生ゆく  
ヒツウチの電話のベルが鳴り続く一人暮らしの深夜の刻を  
ふるさとの神社に残る天井絵幽けき青に波頭を認む  
見過ごしてしまひさうなる小さき像マンショと知れば深き影あり  
片方の手の平にのる捨て猫の小さな鼓動ほのかな温もり  
読むたびに泣く「ごんぎつね」泣きたくて読んでいるような私もいたり  
墓参りやけに線香がつきにくいかの日の親不幸あやまりて  
ダイヤ三つ首から提げて勝ち組のふりして臨む同窓会に  
おはようとおおきにおかえりおいでやすおのつく言葉にある思いやり  
少しだけ背伸びしていたあの頃がはにかんでいる実家の本棚  
野良猫を自由猫と呼ぶイタリアで真昼の月に大きくジャンプ  
春の陽がほつこり渡りてゆきたるか子どものタオルの赤鬼わらふ  
水撒けば出来そこないの唐辛子噴うがいいさ曲がるがいいさ  
口下手を補うような筆圧の強い手紙が明け方届く  
平成が終わったんだよ 柴犬はきのうと同じ顔して眠る

宇都宮 千瑞子	愛媛県松山市
古賀 由美子	佐賀県唐津市
伊藤 益加	宮崎県延岡市
渡辺 勇三	奈良県宇陀市
大谷 彩	千葉県市川市
井田 あさみ	滋賀県東近江市
羽良 キヨ子	宮崎県都城市
天王谷 一	徳島県小松島市
大川 教子	宮崎県都城市
一柳 いくみ	岡山県岡山市
片伯部 りつ子	宮崎県延岡市
浜松 栄一	宮崎県延岡市
浦上 紀子	富山県射水市
林田 麻裕	京都府京都市
和田 江里香	岡山県岡山市
碧井 文果	福岡県北九州市
牧田 明子	神奈川県藤沢市
水野 大雅	愛知県名古屋市
雪吉 千春	東京都新宿区
岩崎 雄大	埼玉県和光市

<一般の部 題詠「歩」>

○最優秀賞

反対のルートを選び頂上で父母は出会った その山歩く

金子 歩美 群馬県東吾妻町

○優秀賞

プシケがあるプシケがないと指差して野道歩きし十六歳の春  
ひらかなを手のひらに載せぼつぼつとこぼして歩く万葉の里

大賀 康男 愛媛県新居浜市  
山本 明 千葉県市川市

○優良賞

逃げられぬ光をざぶりと蹴る子らの黄の長靴が育てる歩み  
満員の乗客たちが半歩詰め車いすへと小さな隙間  
歩みよる気配すらなき二国あり先の大戦知らぬ指導者

木田 昨年 福岡県久留米市  
太田 省三 大阪府池田市  
田上 嘉尋 宮崎県宮崎市

○佳作

目を離す隙にでで虫消えにけり弛まぬ歩み怖しと想ふ  
凧一つ上がらぬ峠の道を電柵回りて歩む年明け  
「あれは何？」幼は歩むその一歩一歩に小さな発見をする  
牧水の歌碑の誘える百草園きみと歩みしころに変わらず  
ケイタイを使ふ用事のなけれどもしかと記録の花見の歩数  
畔歩く早乙女の顔ほとんどが皺深くある御田祭なり  
この世よりほかの世知らず黄昏を妻の歩幅に合はせて歩む  
キミからの一歩の距離が遠かったその手を掴み損ねた夏に  
柔らかな踵は土を知らなくて歩く痛みも知らぬ温もり  
牧水の「いざ唇を君」の歌想う日向岬をふたり歩けば  
肩丸め嵐の中を歩み行けば犬は時おり吾を窺う  
三歩目はちょっと大きくふみだして初めての街始まる旅よ  
雨あがりカッパ着た子ら腕上げ怪獣のごとき影で闊歩す  
「創作」の終刊むかへしみじみと短歌誌の歩み積みあげてみる  
杖無しに歩くりハビリ重力にあらがう生を学び直しぬ  
きみがいたときの一歩と僕だけの一歩が違うと気づく夏祭り  
歩行者のひとりたりけん轢死体街の外れに横たう狸

安田 清一 千葉県木更津市  
伊藤 益加 宮崎県延岡市  
岸本 恵美 大分県大分市  
野上 卓 東京都世田谷区  
狩集 祥子 東京都世田谷区  
清末 悅子 宮崎県都城市  
河野 正 宮崎県延岡市  
大野 美波 埼玉県入間市  
服部 明日檜 東京都大田区  
日高 尚子 宮崎県日向市  
石井 多壽子 神奈川県茅ヶ崎市  
和田 江里香 岡山県岡山市  
近藤 千壽 神奈川県藤沢市  
中瀬 房子 宮崎県宮崎市  
中村 英俊 北海道伊達市  
今井 彩美 宮崎県新富町  
別府 紘 宮崎県国富町

いくつかの医院を歩いて巡る夫九十二歳元気の素なり  
手をつなぎ歩みし幼は棟上げの主となりてせんぐ餅を撒く  
歩みきて女はわが干す梅干を「おいしさうやな」ふはり言ひたり

岸 和子  
鈴木 瞳代  
阿久津 恵美

熊本県熊本市  
宮崎県日向市  
東京都大田区

### ＜小学生の部＞

#### ○最優秀賞

姉ちゃんも食べるといいなこのピーマン宮崎を出て東京へ行く

門田 藍子

新富町立富田小学校

3年

#### ○優秀賞

つばめからふんをかけられおどろいた水てっぽうでかみの毛あらう  
むしかごとむしあみもってせみとりへばつとつかまえまたねとかえす

江藤 銀  
黒木 蒼天

美郷町立美郷南学園  
日向市立大王谷学園

2年  
4年

#### ○優良賞

橋の上車が一、二、三台と速く走って新しい風  
鏡から見える自分はどんな顔毎日ちがう新しい自分  
つばめのこくちからくちにえさもらうちゅちゅちゅとなくよおおきくなれ

池澤 芽生  
川口 美水姫  
前田 仁

日向市立美々津小学校  
美郷町立美郷南学園  
宮崎市立内海小学校

5年  
6年  
1年

#### ○佳作

なつやすみかぞくみんなでかわにいきおよいでもぐっていきものさがし  
みずをのむむしとりをするせみをとるあいすをたべるなつはたのしい  
あさがおの葉っぱにひそむあまがえるぴょんととびでてしりもちをつく  
かぞくとねたべてひんやりカキゴオリわたしはいちごあなたはなあに  
夏になり風りんチリンとなっているそこは空気が涼しくなった  
雨がふるかさにあたって気持ちいなわたしだったらどんな音かな  
朝起きて雨ばらばらとふっているまるで「起きて」と言ってるようだ  
雨がふりかさにあたるよ音色がねぼとぼとぼろぼとぼとぼろ  
トンボたちなえにとまって羽やすめまた飛んで行く空にむかって  
塩見地区いい人ばかり住んでいて野菜くれるよ笑顔くれるよ

鈴木 琉仁  
下田 世良  
今村 成臣  
炭床 如紗羅  
小野 紡  
尾崎 日葵  
門脇 愛莉  
澤田 吾子  
新地 楓和  
松田 友喜

日向市立財光寺小学校  
日向市立財光寺小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
新富町立富田小学校  
日向市立塩見小学校

1年  
1年  
4年  
4年  
5年  
5年  
6年  
6年  
6年  
6年

おおだまをりょうてでうまくころがすよすながざらざらたまはぶるぶる  
 ひらがなのひがむずかしいにがてだようまくかけたらうれしいです。  
 うそをつくへんなうそつく楽しいなおこられるなあげんこつされる  
 えいごがすきせんせいがおしえたアッポーはぼくのすきなまあるいりんご  
 夏の川暑いときには気持ちいいつたりついたりつれなかつたり  
 お手伝いありがとうと言われ気づいたよ私もお母さんにありがとう  
 くるしさにじゅくをたちいでてながむればいすこもおなじなつのゆうぐれ  
 みみずはねかみさまみたいにえらいんだつちをきれいにしてくださるよ  
 旅に出る後ろ姿がかっこいいぼくもなりたいあの父のように  
 さしみにはしょうゆとわさびと日向夏一緒に食べるとおいしさ増える

尾崎 羽奏	美郷町立美郷南学園	1年
上村 璃空	美郷町立美郷南学園	1年
中森 瑛介	美郷町立美郷南学園	2年
松田 紅葉	美郷町立美郷南学園	2年
橋口 侑史	美郷町立美郷南学園	5年
東 結菜	日向市立大王谷学園	5年
宇都宮 悠	日向市立大王谷学園	6年
山床 拓真	日向市立坪谷小学校	2年
福田 遼真	日向市立富高小学校	6年
長友 宏醍	日向市立富高小学校	6年

## ＜中学生の部＞

### ○最優秀賞

女神像微笑んでいないなぜだろうなぜなら今は自由ではない

遊亀 生琉	新富町立富田中学校	2年
-------	-----------	----

### ○優秀賞

虫や葉に鼻を近づけにおいかぐそれぞれ違う命のにおい  
 一点に思いをこめて竿を引く今年の初物鮎をもとめて

長友 翔舞	西都市立都於郡中学校	2年
赤木 謙心	延岡市立北川中学校	3年

### ○優良賞

授業中君と目が合うその時が私の恋をあざやかにする  
 帰り道兄と話したふざけ話自販機の中にきっと人いる  
 病室の窓から見える町並みを散歩してみる心の中で

竹之内 玲子	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	1年
小山 正則	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	2年
菊池 鳩太郎	日向市立東郷学園	7年

### ○佳作

はにかんでハハハと笑う僕の母同じ顔してハハハと笑う  
 腰痛になって初めて知ったのは腰を曲げてる祖父母の気持ち  
 ラベンダー時がたつほど黒くなりむらさき色の時はみじかし

香西 咲空	西都市立都於郡中学校	2年
細川 玲菜	宮崎市立高岡中学校	2年
橋倉 陽向子	門川町立西門川中学校	2年

二度見した宮崎の山きれいだなおもわず母にスマホをかりた  
 窓ごしにきれいな夕日輝やいてふとつぶやいた「生きてて良かった」  
 きのうおでん弁当おでん夜おでん給食おでんコンビニおでん  
 教室の窓から見える夕景色見ていたのかな古の民  
 悔しくてグラブを外したその瞬間泣いてもいいよと雨が降りだす  
 シベリアに我が曾祖父は花と散る若人は忘れ繰り返される  
 友達のジャージを借りて着てしまう一時間だけ名字が変わる  
 懸命に人が話すと揚げ足が浮かぶ自分の心のみにくさ  
 「全部イヤ」自分が落ち込んでる時は鳥もだいたい低空飛行  
 電車内サラリーマンに高校生今日という日をどう生きたのか  
 こっち見ろよアイツと話す君の背にセミの抜け殻くっつけてやった  
 かがり火が消えて鹿の音聞くころに神楽屋のうえ星くずが降る  
 短歌はね難しいけどおもしろい言葉以上の意味があるから  
 聞かされたつまらん話先生からねてはおこられまたねておこられ  
 ナイフのよう自由に泳ぐイルカたち心うばわれ息が止まった  
 私ん家母と私の二人だけもらった愛は海より深い  
 赤トンボ静かに一匹入り込みみだれつつある授業の空気

平片 隆斗	日南市立油津中学校	2年
立野 真珠	日南市立油津中学校	2年
新名 咲太郎	鵬翔中学校	2年
齊藤 翔大	鵬翔中学校	2年
横山 夕華	延岡市立北川中学校	2年
江島 璃駆	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	1年
服部 香菜乃	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	1年
近藤 桃代	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	2年
荒川 紗珠音	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	3年
後藤 慎之介	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	3年
田品 穂乃	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	3年
高妻 尚生	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	3年
谷口 大紀	延岡市立南中学校	2年
吉岡 将也	宮崎市立久峰中学校	2年
橋口 枇奈	宮崎市立久峰中学校	2年
松本 静流	日向市立財光寺中学校	2年
小田 康平	日向市立財光寺中学校	2年

### ＜高校生の部＞

#### ○最優秀賞

命とはどの言葉よりむなしくてある日突然重さに気づく

橋本 恵  
宮崎県立高千穂高等学校  
2年

#### ○優秀賞

作業着にあいた穴見て思い出す溶接していたあの日の熱さ  
 信号を待つ人数えている昼の点滴わたしに命はもどる

甲斐 輝	宮崎県立日向工業高等学校	3年
船ヶ山 明里	宮崎県立宮崎商業高等学校	3年

## ○優良賞

誰が何と言おうと絶対そなのだ月は私についてきている  
大好きと何度も首かしげ理解していない愛犬の顔  
雪道にぽっかり出来た足跡を君のものかななんて考える

## ○佳作

いとしさは入学したての弟の制服姿の余った袖口  
牛を見て今日も元気かと聞いてみるといつ頃からか年をとったな  
高農は学科が4つ僕食科夏の実習汗水だらけ  
泣いている父を窓から眺める僕あれから10年後悔ばかり  
農作業汗水流してがんばった夏にできしたスイカの定植  
生きるため嫌でもかよう学校に学んだことは役にたつかな  
そわそわと校門で待つ君を見てわざとゆっくり近づいてみる  
気づいてた？君の言葉で傷を負い君の言葉で笑顔になれた  
あの人に初めて湧いた感情の意味が分からずかれこれ二年  
今君が見ている空と同じ空眺めるだけで近くに感じる  
じいちゃんの大好きだった酒まんじゅうお墓の上に供えておくよ  
忘れればいいんだよって言うように突然雨がザーッと降った  
夏の日に海で拾った宝物耳に当てると一人だけの海  
奥山に赤い光が顔を出しゆっくりとまた今日が始まる  
あつあつのプールサイドで飛び跳ねるフライパンのソーセージのよう  
抽斗の奥に一枚残る紙伝えたかった祖母への感謝  
新学期桜並木を抜けながら昨日とちがう私が待っている  
好きだけど好きと言えないこの関係声に出したら消えちゃいそうで  
桜散り夏の匂いを感じた日暦が似合う君が好きです  
つんつんととんがるつららの先端にきらめくしづく見てみたいです

石川 純子 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
伊東 さな 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
稗島 由花 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年

若松 歩乃佳 鵬翔高等学校 2年  
渡邊 玲音 宮崎県立高鍋農業高等学校 2年  
佐藤 翔太 宮崎県立高鍋農業高等学校 2年  
新垣 愛翔 宮崎県立高鍋農業高等学校 2年  
樺木野 蒼 宮崎県立高鍋農業高等学校 1年  
寺原 優香 宮崎県立高鍋農業高等学校 2年  
白須 光 宮崎県立延岡商業高等学校 1年  
神志那 蒼空 宮崎県立延岡商業高等学校 1年  
長友 萌恵 宮崎県立延岡商業高等学校 3年  
矢野 胡桃 宮崎県立延岡商業高等学校 3年  
和田 彩花 宮崎県立延岡商業高等学校 2年  
甲斐 政博 宮崎県立延岡商業高等学校 1年  
田中 大陸 宮崎県立日向工業高等学校 3年  
荒砂 美月 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
金子 万葉 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
加世田 優駿 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
木下 花梨 宮崎県立宮崎西高等学校 1年  
清水 夏鈴 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年  
宮崎 愛弓 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年  
丸田 琉月 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年